

国際再生可能エネルギー機関（IRENA）第5回総会
閣環境省地球環境審議官によるステートメント

【議題8】再生可能エネルギーと気候変動

1. 再生可能エネルギーを中核とした社会の構築

- 気候変動は、現在世界が対峙する最も大きな脅威の一つです。
- 再生可能エネルギーの世界的な普及は、エネルギー消費の大幅削減と並んで、低炭素エネルギー社会を世界で構築していく上で重要です。このために IRENA やここに集った我々が政治的意志を持って立ち向かう必要があります。

2. 日本の貢献

- 我が国は、国連気候サミットにおいて、途上国支援、技術の革新と普及、国際枠組みへの貢献の3つを鍵とする貢献策を発表しました。
- まず、あらゆるツールを活用し、各国と緊密に協力し、低炭素社会を構築してまいります。我が国は、洋上風力を始めとする再生可能エネルギーの導入拡大のため、技術開発をすすめています。これらの技術を世界へ普及し、世界全体での温暖化対策の推進に資するため、二国間クレジット制度（JCM）を構築し、実施しています。これは、途上国への低炭素技術の普及を通じた貢献の柱となるものであり、既にこれまでに12カ国と署名に至っています。
- 特に島嶼諸国における再生可能エネルギー導入については、パラオ、モルディブにおいて JCM を活用した太陽光発電プロジェクトを実施しています。IRENA におけるライトハウス/イニシアティブにも登録しており、このイニシアティブの積極的な展開を支持します。また、これらプロジェクトによって形成された知的ストックを、イニシアティブの活動等を通じて水平展開していくことも検討します。
- また、アジア太平洋島嶼国を中心として、我が国が有する再生可能エネルギーの技術内容について、行政官を対象とし、実地研修を含めた研修を今後も継続してまいります。
- また、気候変動対策の資金支援については、昨年、緑の気候基金に対し、国会の承認が得られれば、15億ドルを拠出する旨表明したところです。こうした取組が再生可能エネルギーの促進にも資することを期待します。
- さらに、COP（コップ）21は2020年以降の新たな国際枠組みを採択する非常に重要な会議です。我が国は全ての国が参加する公平で実効的な枠組みの実現を目指して積極的に貢献していきたいと考えています。

3. まとめ

- これらを通じ、世界全体の低炭素社会への変化を促進するための行動を続け、IRENA や各国とともに歩んでいきたいと考えております。
- 御静聴、ありがとうございました。